

団体名	忠臣蔵交流楽碁会	活動名	忠臣蔵交流囲碁大会 ;及び こども囲碁教室の開催
-----	----------	-----	-----------------------------

1 事業の実施内容

① 実施場所 (地域)	② 実施期間 (開催準備期間を含む)
忠臣蔵交流囲碁大会 平成 24 年 12 月 1 日～2 日 関西福祉大学 忠臣蔵交流囲碁チビッ子大会 平成 24 年 12 月 9 日 赤穂市加里屋まちづくり会館	忠臣蔵交流囲碁大会 自 平成 24 年 4 月 1 日 至 平成 24 年 12 月 25 日
こども囲碁教室 入門クラス 赤穂市加里屋まちづくり会館 初級クラス 赤穂市加里屋楽碁会囲碁サロン	こども囲碁教室 自 平成 24 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 2 月 24 日
③ 実施体制	
忠臣蔵交流及びチビッ子囲碁大会 実行委員 20 名、他 15 名 (傘踊り、ボランティア)	
こども囲碁教室 講師 8 名	
④ 事業実績	
1) 忠臣蔵交流囲碁大会 赤穂市、上郡町、備前市より大会実行委員 20 名を選出し、開催に向けて計 4 回の大会実行委員会を開催。委員会では大会実行推進体制と役割分担、開催場所、大会実行予算の審議等を行った。大会参加者は A, B, C, D クラス 171 名、チビッ子クラス 35 名 計 206 名と盛況であった。大会開催状況については、添付書類 3 第三回忠臣蔵交流囲碁大会 (報告) 及びホームページ http://www015.upp.so-net.ne.jp/ako-rakugokai/no1jisseki.html を参照	
2) こども囲碁教室 (次世代のこども、シルバー年代へ囲碁入門講座開催)	
①こども教室受講生募集活動 昨年度受講者に継続受講案内ハガキ発送、こども教室生徒募集広告掲載 (赤穂民報 4 月 21 日付)	
②こども教室受講申込生徒数 33 名 (内訳 入門クラス 10 名、初級クラス 14 名、シルバークラス 9 名)	
③こども教室囲碁講座 平成 24 年 6 月 24 日～平成 25 年 2 月 17 日の間 毎週日曜日 10 時～11 時 30 分 合計 34 回開催 ・入門クラスは赤穂市加里屋まちづくり会館にて開催 囲碁の基本ルールを理解と、9 路盤、19 路盤での実戦対局を通して指導 ・初級クラスは赤穂楽碁会囲碁サロンにて開催 囲碁の基本手筋、定石、布石についての講座と実戦対局指導 次世代へ囲碁の面白さを教え、普及するために、こども教室以外に下記の活動をした	
④土曜夜店にて「親子ふれあい囲碁あそび」を開催 6 月 16 日～7 月 14 日の間の土曜日 花岳寺通り商店街の土曜夜店にて、囲碁サロンを開放し、囲碁を知らない子に、碁石に触れるゲームを教えた。	
⑤赤穂高等学校囲碁部の囲碁部員に対して毎週月曜日 4 時より、赤穂楽碁会「囲碁サロン」にて囲碁の打碁指導を実施	

2 事業実施の成果

① 事業実施の成果

日本の伝統文化である囲碁を通じて地域間交流、世代間交流を活発にし、人口減少が進む東備西播地区の活性化を図るために、近隣の2市1町(赤穂市、備前市、上郡町)が中心となって、他地域にも呼掛け、住んで良かったと思える活力ある地域作りに、貢献することを目標として活動している。

また大石内蔵助が残した囲碁に関するエピソードや、愛用の碁盤等をもとに、囲碁の町赤穂をPRした

1) 忠臣蔵交流囲碁大会

- ・大会開催も3回目となり、赤穂義士祭を盛り上げるイベントとして、その名も定着しつつあり、京阪神地区からの参加者も徐々に増えてきている。
- ・今年度参加者206名の内、核になる2市1町(赤穂市、備前市、上郡町)の参加は126名(60%)を占め、囲碁を通じた地域間連携と交流基盤をより強固にした。
- ・大会の開催案内は、囲碁関係の雑誌やNHKの囲碁番組「囲碁フォーカス」でも紹介され、全国からの問合せが寄せられた。
- ・昨年度に引続き関西福祉大学の全面的なご協力の下に、会場として大学構内の設備を利用させて頂き、素晴らしい環境の中で開催する事が出来た。
- ・大会開催に当たって40社を超える地元企業、商店、旅館、漁業組合から協賛品を提供頂き、入賞賞品、参加賞他に利用させて頂いた。
なお協賛会社名は、インターネットのホームページに掲載するとともに、賞品の目録を作成し、賞品と一緒に参加者に手渡し協賛会社の宣伝をさせて頂いた。

2) こども囲碁教室(次世代のこどもへの囲碁の伝承、シルバー世代への囲碁の普及)

- ・近年、囲碁は感性をつかさどる「右脳」の発達を促進する事と、ボケ防止への有効性が確認され、囲碁が見直されてきている。
- ・「右脳」は3～13才の間に、80%の発達を終えると言われているが、その時期に当たる幼稚園、小学生に囲碁を教える事は非常に意義のある事である。この4年間で受講生は累計で60人を超え、この囲碁で鍛えた「右脳」の力で、バランス感覚と大局観を備え、辛抱強く、先読みの出来る成人に育って欲しい。
- ・こども囲碁教室の受講生である田中康湧君は、ここ一年でメキメキ強くなり「少年少女囲碁大会」兵庫県予選を勝ち抜き、県代表として7月31日東京の全国大会に出場した。
また12月15日「くらしき吉備真備杯こども棋聖戦」全国大会にも県代表として参加した。
- ・今年度から、シルバー年齢の初級者や父兄も加え、世代間交流対局を試みているが、囲碁は90才台まで老若男女を問わず対等に楽しめる、数少ないゲームで、趣味を兼ねてボケ防止のツールとしても注目を集めている。

H24 ども囲碁教室活動状況

H24 年度
ども囲碁教室

スタート

教室の様子



忠臣蔵交流囲碁
チビッ子大会の
様子



田中康湧君
全国大会へ

(赤穂民報)
H24.7.21

第1999号 平成24年7月21日

囲碁5段の田中康湧君 全国少年少女大会へ 赤穂の碁会所で腕磨く

赤穂市内の碁会所で、棋力上達に励んでいる相州市大石町の田中康湧君(11)が、第53回朝日少年少女囲碁大会の兵庫県大会で準優勝、自身初めての全国大会出場権を手にした。田中君は「予選を勝ち抜けるように頑張る」と備前を誓っている。

初めて碁石を握ったのは6歳のとき、近所の公民館の囲碁教室で基本を教わった。小3の秋からは加賀屋の花岳寺通商店街にある「赤穂碁会」の碁会所に月2、3回通い、黒田紀典会長(11)塩屋IIをはじめとする高段者にもまわっている。「小学校を卒業するまでに初段になりたい」と考えていた田中君は、15歳だった昨年1月、碁会所の常連メンバーから「これを毎日やったら必ず初段になれる」と手筋の問題集を薦められた。一日10問のノルマを課し、実力が急速にアップ。半年後に初段、その翌年には安達利昌プロに3段を認められた。20歳までの3段以上が集まる関西棋院高等部にも合格し、あまりの成長の速さに周囲がとまどうほどだ。

全国大会は7月31日と8月1日に東京の日本棋院である。県大会の1カ月前から始めた朝練習は倍の1時間に増やした。碁碁が本当に面白い、知らない人たちと対局できるのが楽しみ」と大会を心待ちにしている。(写真：真田碁の少年少女全国大会に出場が決まった田中康湧君)

(添付書類 2)

イ ベ ン ト 等 事 業 収 支 決 算 書

1 期 間 平成 24 年度 (平成 24 年 4 月～ 平成 25 年 2 月)

2 収入の部

(単位 ; 円)

科 目		金 額	備 考
事業推進支援金 (ア)		178,000 円	東備西播定住自立圏民間イベント事業支援金
事業収入 参加料	チャンピオン大会(A,B,C クラス)	320,000 円	2,000 円 × 160 名
	D クラス大会	16,500 円	1,500 円 × 11 名
小 計		336,500 円	
自己資金	忠臣蔵交流楽基会前年度繰越金	14,983 円	
	協賛金・寄付金	80,000 円	企業 3 社、個人 5 名 各一万円
小 計		94,983 円	
その他	小 計	25,000 円	So-net 社より、接続料キャッシュバック
合 計 (イ)		634,483 円	

※ 収入科目は、収入金額の種類 (自己資金、他団体負担金、参加費等) に分けて、それぞれ記入してください。

※ 他から助成を受けた場合は、「その他の助成金 (補助金)」の欄に記入してください。

3 支出の部

(単位 ; 円)

科 目		金 額	積算内訳
助成対象経費	謝金	142,400 円	こども教室講師、事業協力謝金
	旅費	0 円	
	需用費 (事務用品、教材費 他)	52,228 円	文具費、印刷費、囲碁テキスト代他
	役務費 (通信費)	24,000 円	通信費
	委託料	60,000 円	審判長
	会場費	179,060 円	会場・対局設備賃借、会場設営費
小 計 (ウ)		457,688 円	(ウ) ≥ (ア)
対象外経費	昼食費	94,400 円	予選大会、決勝大会
	会議費	53,973 円	
	謝礼他	2,040 円	
小 計		150,413 円	
次年度繰越金		26,382 円	
合 計 (エ)		634,483 円	(エ) = (イ)

※ 収入と支出の合計は一致させてください。